

複数ユーザの利用情報を用いた RSS リーダ

滝沢 敏裕[†] 山名 健悟[†] 湯浅 将英[†] 大山 実[†]

東京電機大学 情報環境学部 情報環境工学科[†]

1. はじめに

最近 Web の更新情報を配信する技術として RSS が注目されている[1]. RSS は Blog やニュースサイトの更新情報を配信する XML フォーマットの文書である. ユーザは RSS を収集することですばやく最新の情報を得ることができる. RSS を容易に収集し閲覧するツールとして RSS リーダの開発がされてきた.

しかし, RSS の技術は概念自体が知られておらず, その利便性が生かされていない問題がある. また, 従来の RSS リーダを利用するためにはユーザ自ら RSS を配信しているサイトを探し出し, RSS 配信ページを登録する必要がある. その問題を解決するため BlogPeople[2]や RSS ナビ[3]のように RSS のランキングや, カテゴリ別に RSS 配信ページの情報を提供することが考えられる. さらに, ユーザの利用状況から, より好まれるサイトの情報をリーダーが提供することによりユーザは多くのサイトから RSS を探し出す手間を軽減できる.

そこで本研究では, 複数ユーザの利用情報を用いて RSS サイトの登録を支援する RSS リーダを開発した. 本システムは, 複数のユーザによって利用されるサーバ型の RSS リーダで, ユーザの利用状況を自動的に記録する. また参照数の多い RSS サイトやシステム内で頻りに検索された記事の情報をユーザに提供することで, 登録したい RSS サイトを容易に見出せる. 本論文では, 提案する RSS リーダの仕組みと動作例を述べる.

2. 提案する RSS リーダ (Pizza) の概要

RSS リーダは主にアプリケーション型とサーバサイド型のものがある. 本研究で開発した RSS リーダ (Pizza[4]) はサーバサイド型である. サーバサイドで RSS の利用情報を管理することで, 他のユーザが利用している RSS 配信ページを知ることができる. 図 1 にそのアーキテクチャを示す. ユーザは利用したい複数の RSS 配信ページを Web サイトやシステムのランキングからリーダーに登録する. 本リーダーはその RSS 文書から見出しとリンク

An RSS Reader Based on multiple users' Information

Toshihiro TAKIZAWA[†], Kengo YAMANA[†], Masahide YUASA[†] and Minoru OHYAMA[†]

[†] Tokyo Denki University, Department of Information Environment Engineering.

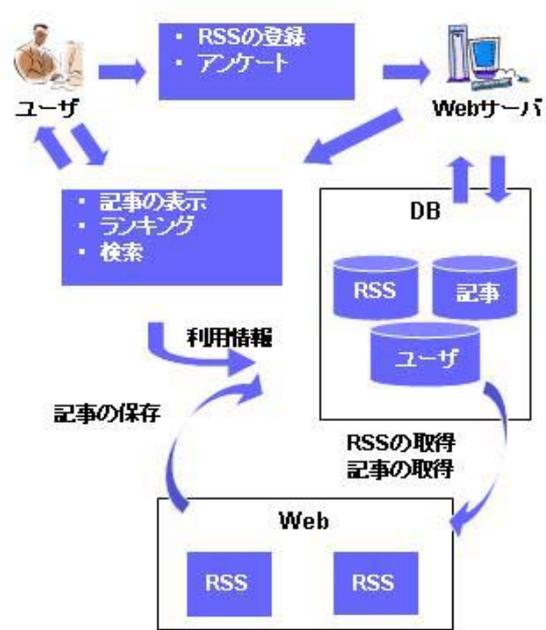


図 1. システム全体の流れ

を取得し, ユーザに記事の閲覧を可能とさせる. また DB に保存された RSS の情報から記事のアドレスを取得し, Web 上の RSS サイトを巡回して記事そのものを DB に蓄積する.

本システムはまた, 複数ユーザの利用状況を蓄積する. これらの蓄積情報をもとにランキングや記事を検索する機能を提供する. ランキングや記事検索時に表示された RSS はボタンひとつで簡単に登録することができる. 以降で各機能について述べる.

2.1. RSS 利用状況の共有

RSS の登録状況から RSS のランキングを作成する. 図 2 のようにユーザ A, B, C が RSS を登録していたとき, ユーザ C は RSS Y を知らないが, ランキングが提供されることによって RSS Y を知ることができる. またユーザが, 検索やランキング, 配信されている記事を読覧すると, それが利用情報としてカウントされる. その情報をもとに記事ランキングを作成する. したがって, 人気のある RSS の中からより多く閲覧されている記事が上位に表示される.

図 3 は 3 つのランキングを示している. 図 3 (1) のサイトランキングは RSS の配信元の登録数から生成される. 図 3 (2) の記事ランキングはユーザが

システムを利用して記事を閲覧したときの閲覧数

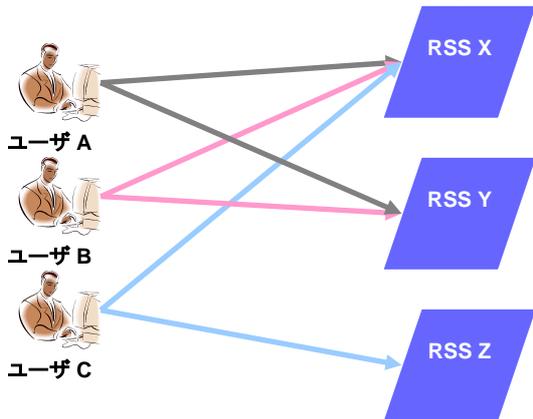


図 2. ユーザの登録する RSS

サイトランキング (1) 最近登録されたサイト (3)

順位	サイト名	登録数	登録
1位	CNET Japan	18	登録
2位	NHKニュース	15	登録
3位	asahi.com	11	登録
...

サイト名	登録
東方夢想録	登録
PukiWiki	登録
研究室 情報	登録
...	...

記事ランキング (2)

順位	記事タイトル	サイト名	閲覧数	登録
1位	○×高校 [04年]板よりネタ。	板ウオチィ	14	登録
2位	○○って似てるよな...	板ウオチィ	11	登録
3位	悩んでいること	擬似日記	10	登録
...

図 3. ランキング情報

からなる。また、RSS の登録情報をもとに、図 3 (3)の最近登録されたサイトを表示する。これらを利用してすることによって、ユーザは人気のある Web サイトや注目されている記事を知り興味のある RSS 配信ページを簡単に登録できる。

2.2. 記事の検索

ユーザはシステムに登録されているすべての RSS の配信する記事から検索ができる。この検索機能を用いることでも RSS 配信ページを知ることができる。全文検索の実装には Namazu[4]を利用した。

たとえばユーザが記事を読んでいたとき、それについて他の情報がないか検索をする。検索結果にはキーワードに関連する記事と RSS 配信ページのアドレスが表示され、閲覧中に気に入ればそのまま登録することができる。図 4 は「津波」をキーワードに検索を行った結果の例である。

検索結果

検索式にマッチする 410 個の文書が見つかりました。

1. [どうなる? 津波犠牲者の鑑定方法](#) (score:106)
犠牲者の身元を...
2. [ミハエルさん、津波被災者に義援金?](#) (score:76)
歌手のミハエルさんが津波の...
3. [地震の津波被害救済に義援金](#) (score:45)
津波被害の救済に...

図 4. キーワード「津波」の検索結果

2.3. 嗜好情報の利用

嗜好情報を利用することで、興味のある RSS の配信ページを知り登録できる。ユーザはシステムを利用する際に簡単なアンケートを入力する。アンケート結果から他のユーザとの類似点を探し、ユーザの嗜好にあった RSS 配信ページの推薦を行う。たとえば、アンケート結果からユーザがスポーツに興味があることがわかれば、スポーツに興味がある他のユーザが登録している RSS を推薦する。

また、ユーザが登録した RSS から嗜好情報を取り出し、類似点から RSS を推薦する。

3. まとめ

複数ユーザの利用情報を用いた RSS リーダを作成した。ユーザの利用情報を共有することにより、ユーザの RSS 配信ページの探索時間を短縮し、効率化を図った。

今後の開発として、ユーザがより RSS を利用しやすい環境を構築するため、ソーシャルネットワークとの連携を予定している。また、RSS の記事から評判情報を抽出するシステムとの連携も行う。

参考文献

- [1]新納 浩幸：入門 RSS, MYCOM(2004).
- [2]<http://www.blogpeople.net/>
- [3]<http://www.rssnavi.jp/>
- [4]<http://www.ics.sie.dendai.ac.jp/pizza/>
- [5]馬場 肇：Namazu システムの活用, SOFTBANK(2001).